

議会議員研修報告書

議員名

小玉 勇

期 間	出張先
令和4年7月4日から 令和4年7月5日まで 計2日間	<input type="checkbox"/> 市町村職員中央研修所 <input checked="" type="checkbox"/> 全国市町村国際文化研修所
研 修 テ ー マ	
世界情勢からわがまちの未来をつくる	
報 告 大 要	
1. 研修日程及び講師	
1日目 1. 新冷戦時代と日本の安全保障 13:15~14:45	
講師:英国王立防衛安全保障研究所 秋元 千明 氏	
2. 地域資源としての異文化と多文化共生 15:00~16:30	
講師:静岡県教育長 池上 重弘 氏	
2日目 1. デジタル先進国デンマークから学ぶ 9:00~10:30	
講師:三菱 UFJリサーチ&コンサルティング株式会社ソーシャルインパクト・パートナーシップ 事業部 社会イノベーション・エバンジュリスト 中島 健祐	
2. 持続可能な地域社会の構築 10:45~12:15	
講師:日本気候リーダーズ・パートナーシップ 共同代表 三井住友信託銀行 ESGソリューション企画推進部 主管 三宅 香	
2. ロシアとウクライナについて考えたこと	
東方正教は、カトリック、プロテスタントと並ぶキリスト教の三大教派の一つだ。	
カトリックがローマ教皇を頂点とするピラミッド型の組織を持つのに対し、正教会は、ロシア正教会やウクライナ正教会、ギリシャ正教会など、それぞれ独立した協会が各地にある。	
しばしばロシア、ウクライナ、ベラルーシは「同じ洗礼盤から生まれた三兄弟」と表現される。	

<p>1千年以上前、988年、ロシア西部やウクライナ、ベラルーシの地域に住んでいた民族「ルーシ」の有力者キエフ大公ウラジーミルが東方正教の教えをビザンツ帝国から受け入れた。この起源神話がウクライナはロシアの一部であり、西側から守れと主張する世界観「ロシア世界（ルースキー・ミール）」を形成している。</p>
<p>1990年第共産主義の建設に向けた民族が一丸となるという、ソ連時代のイデオロギーが通じなくなると、ロシア政府はロシア正教会を筆頭にキリスト教諸派やイスラム教など、伝統宗教を通じて共同体への献身といった価値観を広め、秩序を維持しようとした。</p>
<p>プーチン大統領と蜜月とされるロシア正教会トップ、キリル総主教は戦争を正当化している。ただし、すべての聖職者が支持しているわけではない。</p>
<p>3. 感想、今後の議員活動への活用など</p>
<p>仮にプーチン大統領が退場した後、ロシアはどうなるのか、を考えると、ロシアは帝政時代から常に強いリーダーが求められてきた。旧ソ連の崩壊過程の一時期だけリベラルに傾いたことがあった。しかし、当時のペレストロイカなどは、今もロシア人にネガティブなものとして記憶されている。仮に今後、プーチンがいなくなったとしても、「その反動で民主化するか」といえば、そんな楽観視はできない。プーチンに似たようなリーダーがいずれ出現するに違いない。</p>
<p>一方、我国を考えると、台湾有事に備え、米国、中国とも関連予算の増額を進めている。中国は台湾の武力統一を考えていないが独立を阻止する行動はありうるとする。日本は、米中の衝突に発展しうる誤解や誤算を解く役割を果たせないでいるが、全力での外交をしていかねばならない。</p>
<p>自分は戦いに巻き込まれたくない。国民も同じではないだろうか？</p>